

そこには確かに、希望も落胆もあったが・・・

2021年総選挙、その先の未来とは？ 今、どこにいるのだろうか？

政権交代論チラシ
2022年春第1号（全5号）
製作者：伊吹健（政権交代.com）

立憲の議席が減って、
維新が躍進したから良かった。
でも、自民党がまた圧勝。
維新は政権を取れるのか？

危うさもある維新の
躍進に問題はないのか？

格差が拡大しやすい時代、
社民系の政党はいらないのか？

立憲の議席が減って、
れいわが増えたから良かった。

でもれいわはまだ小さい。
左派政党全体で議席が減れば、
むしろ格差が拡大しないか？

立憲のどこに問題があり、
れいわが求められるのか？
立憲を変化させるべきか？
させるなら、どう変化させるのか？

自民党が勝って安心した。
自民党は素晴らしい政党か？

自民党の中で主流派が交代すれば、
国民が選べなくても良いのか？
1党優位を続けると、
独裁にならないか？

政権交代が
実現しなくて残念だ。
そもそも今の構図で、
政権交代は可能なのか？

立憲の議席が減って、
失望した。
あきらめるのか？
今、何ができるのか？

2012年以降の日本の総選挙、参院選の結果を見ていくと、
1強多弱の具合が、もはやロシアとそっくりになっている・・・。
これは「日本らしくて良い状態」なのか？ 問題があるのか？

政権交代は必要ないのか？ 今はまだ、不要なのか？
未来には可能になるのか？

政策も大事だが、必ず自民党が勝つのでは意味がない。
政策で政権を選び取れるような国に、日本をしなければいけない。

以前からの、日本の政治の問題点とは？

- ①民主主義国であるはずが、政権交代が定着していない。
・・・国民が選挙で起こす政権交代は、132年間でほぼ1回だけ。
詳しくは政権交代.comをご覧ください。
- ②それが仮に、自民党が素晴らしい政党であるからだとしても、
まともな競争がなければ、**政治の質は低下する**。
・・・「自由」と「民主」が失われる危険もある。
(あまりに強い怒りに基づく政権交代も、本当は不安定で危険)

今回(2021年総選挙)、明確化した問題点とは？

- ①国民の手の届かないところで総理大臣が交代し、
総選挙では、それが**追認**されたに過ぎない。
・・・このような事は他国でも起こり得るが、
日本においては、このような事しかない。
国民は「お上」の決定に賛成し、従うだけ。
総選挙が近くなければ、
菅総理はやめていない
だろう。「選挙で不利
なら取りかえとくか」
という自民党の決定。
- ②1強2弱の傾向が続き、2位争いだけが果てしなく続く。
・・・政権交代なき1党優位が、完全に定着しかねない。
・・・いざ政権交代を起こそうとしても、手遅れになる。

この問題点について考える際に、重要な事がある・・・

日本では、実は同じ事が繰り返されているだけ。
それを脱するためには、どうすれば良いのか？

裏面もぜひ、ご覧ください。

日本の政治は、 明治以来、同じ事を繰り返している。

- ① 優位政党の誕生。
自由党系の、藩閥との接近。自由党系や改進黨系による、自民党の結成。
- ② 優位政党に対抗するため、第2党が何でも反対の政党に。
戦前の改進黨系、戦後の社会党系。 ※実際には「何でも」反対ではない。
- ③ 弱く、非現実的な第2党の内部で不満が高まり、
対決重視派と対案重視派に分裂。（両方必要なのに…）
第2党、野党第1党が真っ二つに割れる事は、何度も繰り返されている。
例：立憲国民党、立憲政友会（野党時代）、民主党（55年体制以前）、
日本社会党、社会民主党、新進党（細分化）、民進党（段階的に）
※ 社会党、社民党は第3党に落ちた後、社民党は与党時代の分裂。
- ④ 優位政党が、他党の議員を少しずつ吸収する。
(④ ごくまれに、優位政党が分裂する)
- ⑤ ②と④の分裂や、第2党に対する不満から、新党が浮上。
緩やかに多党化が進んだ55年体制を除き、小さな新党の誕生と消滅が
頻繁に繰り返されている。
- ⑥ 第2党が優位政党に対抗しようと、他の政党等と合流。
例 ※この時、与党出身者と合流する事で、信頼を得る場合も。
立憲改進黨→進歩党、憲政本党→立憲国民党→立憲同志会→憲政会→
立憲民政党、日本進歩党→民主党→国民民主党→改進黨→日本民主党。
日本社会党（再統一）、新生党（第2党ではない野党第1党）→新進党、
民主党の拡大（1998年、2003年）→民進党、立憲民主党（新）

今は、⑥民進党誕生→②民進党分裂→③→⑤維新の会の浮上
→⑥立憲や国民の合流 + ②に戻る前の、立憲と維新の
果てなき2位争い（どちらかがあきらめるまで続く？）

政治家も問題だが、このことを国民に引き寄せて考えると、
「政党を1つだけは一応育てたけど、あと1つなんて、とても
無理！」という事。結果としては、独裁政党や独裁者に政権を
委ねている国の国民と、そんなに変わらないという事・・・。

良い政党が天から降って来るなんて事はない。このままでは、国民が
政権を選び取る事も、独裁化、腐敗、課題の先送り等を避けるために
政権を取りかえる事も、いつまでもできず、決断無き日本が沈む。
※【小選挙区+2位争い】の組合せも変化を阻む要因になっている。

繰り返しを脱するカギは、日本国民自身。

「良い内閣にならないかな」、「良い政党が出てこないかな」
と、待まっているだけでは、非合理的な1党支配が続く。

※ 1党優位はなぜ非合理的なのか？：競争がない事の弊害はもちろん、選択なしに、
全てが、優位政党を中心とする癒着構造の中での、調整で決まる。変化にも弱い。

ただ待っているのではなく、ただ受け入れるのではなく、
国民自ら変えるとは、どういう事か？

- ・ 同じ野党に何度も政権を任せる。
…責任ある立場を何度も経験させて、育てる。
- ・ 自民党と、そのライバルによる、
対等な競争を実現させる。

でもそんな事したら、日本が破滅するのでは？

- ・ リスクはある。しかし議会政治の先輩国が通って来た道。
- ・ 「もう手遅れだ、破滅してしまう」と思えるほど、実は今、
すでに先送りしてしまっている状態。しかし、遅らせれば
遅らせるほど、失うものはさらに大きくなってしまふ。
- ・ 「野党がダメ」で思考停止しない。なぜそうなったのかを考え、
改善する事、改善を求める事が重要。

注意する必要がある点

国政与党の経験無き政党に
突然政権を任せても、経験、
人材の不足で、失敗する。
決まった政党の間で、一定
の期間を空け、政権交代が
繰り返される事が、まずは
重要。その基本の上で変化。

政党の党首の交代は、
基本的には野党時代に。
与党は野党になった時。
与党時代を総括、路線
を大事にした上で修正、
それを体現する党首を
選ぶ。→国民の選択肢

「野党=売国」は超単純
化。歪曲。もし、日本を
都合よく動かそうとする
国があるなら、日本国民
が野党を警戒している間
に、優位政党に浸透する
のが最も効果的なやり方。

現状を知るため、行き先を定めるため、 日本が今どの段階にあるのか、 考える ～2021総選挙の結果を踏まえて～

政権交代論チラシ2022年春第2号(全5号)

製作者:伊吹健(政権交代.com)

現状・維新の会が躍進した。
・しかし維新が政権を取る可能性は低い。
・第2党になる可能性は、低くはない。
・社民系(立憲)と新自由主義系(維新)の2位争いが続く、1強2弱の政党制。

疑問① 55年体制の1強多弱(自・社公民共他)から、やっと

【自民党 vs 民主党】になった。それを**1回の失敗で**、
1強多弱(自・立維公国共れ)に**戻して良いのか?**

疑問② 立憲が野党第1党の地位を固める事と、2位争いを続ける事、
どちらが政権交代、その成功の可能性を高めるのか?

疑問③ 保守2大政党制となる場合、国民は選択肢を得るのか?

・1強2弱とは、

…【自民1強、他は多弱】が普通の日本だが、大雑把には、
自民党 vs 社会党 だった。(他は不仲ながら一応社会党側)

自民党 vs 社会党

万年与党の癒着構造。
新自由主義的改革志向が弱い。

性質上、新自由主義的な改革に批判的。

↓
改革派の政党が誕生、躍進

自民党側と社会党側の2極構造から、
自民党・社会党系・新自由主義系(小沢系)の、3極構造に

小沢系の社民化・民主党合流によって、欧米型2極構造へ

自民党 vs 民主党

伝統重視
競争重視

多様性重視
平等重視

↓
しかし自民党が曖昧になり、
再び改革派の政党が誕生

←
政権交代が実現するもうまく
いかず、改革派の維新が躍進、
1強2弱の3極構造に戻った。

すぐに1強2弱の3極構造に戻ってしまう・・・

地獄の3極構造の誘惑

利益誘導・癒着の優位政党

戦前9割の議席を占めていた事もある2大政党であり、戦後も第1、2党であった自由党系と改進黨系、加えて新党の多くも合流してできた**自民党**。戦前からの各党の地盤を維持し、中選挙区制ですみ分け、癒着構造、利益誘導政治の力で、万年与党の地位を維持している。

社会民主主義的「第2党」

明治以来**弾圧**を受けてきた左派政党の多くが結集した**社会党**。その良し悪しを別として、日本の左派政党は支配勢力に挑戦する弱者という枠組みから、出られないまま。これは民主党政権、その後の**民主党系**の弱点。

2弱の共倒れ

新自由主義的改革派の新党

自民党、社会党～立憲民主党に不満がある中、両党が担う構造を破壊するものとして期待される**第3極**。しかし、3極構造になるとしても、その中で第3極だけが新しくても、政治は変わらない。民主党も経験したことだが、**姿勢を明確にすると、何でもありの自民党に負ける**。とにかく自民党を倒せと言う国民に失望される(自民党が自民党である限り何も変わらない事を考えれば、実は当然の意見だが)。このため第3極はいつも結局、自民党に寄る議員達と、他の野党との協力を重視する議員達に分裂する。自民にすり寄る動きは、**癒着構造の維持、野党の分断**に利用される。

ポイント① 貧困、格差を是正する社会民主主義政党も、民間の競争を重視して、活力を生もうとする新自由主義政党も、両方必要はらず。

…**状況に応じて、国民が選べるようにする事が大切**。

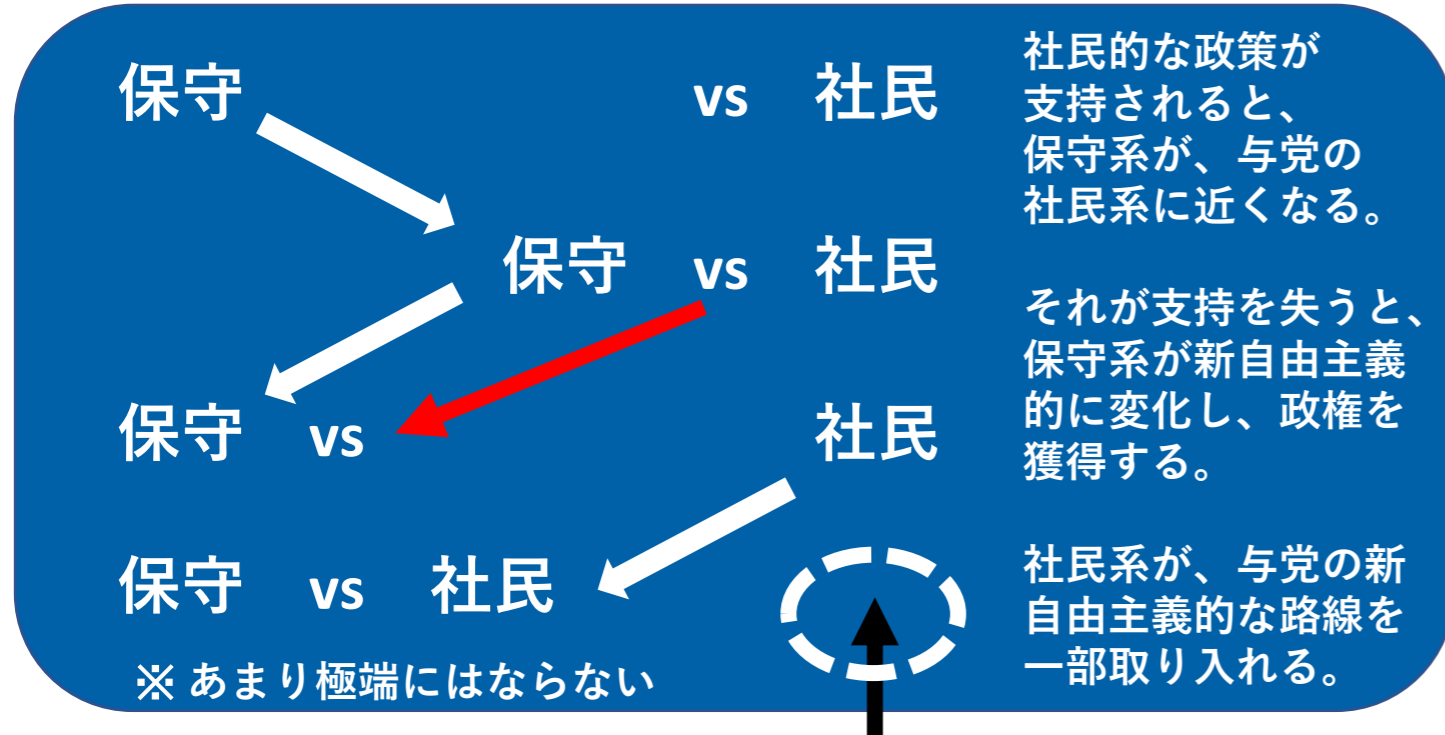
ポイント② 社民系の政党も、その理念に基づく政策の実現のため、歳出の無駄や、不公平な規制を廃する事は、あり得る。機会の平等、再チャレンジの最低限の機会を確保し、あとは自己責任というような、社会民主主義と新自由主義の中間的な立場もあり得る。

ポイント③ 中選挙区制はもちろん、今の小選挙区制でも、自民党が強すぎる1党優位の日本では、変化が起こりにくい。

日本の、欧米（議会政治の先輩国）との違いに気が付く。

なぜ冷戦後の日本では、新自由主義的な第3極ができるのか？

・・・欧米では、保守政党に新自由主義的な面がある。そしてさらに、2大政党が全体的に左右に動くメカニズムがある。



この空いたスペースに社民系が戻るのが、これまでのパターンだが、社民系に迷いがある。そのためここにポピュリズム政党が浮上してきている。ポピュリズムには右派もあるから、結局、左右の対立に整理される可能性がある。あるいは、既成政党とポピュリズム政党が対峙する、新たな政党システムになるのか、まだ分からない。しかしそれも選挙で決まりそう。つまり、今後も国民が選択する、政権交代のある政治が続くと見られる（ただし例外的な状況もある）。・・・時代の変化に応じた再編

ところが日本では、社民系はもちろん、保守政党にすら、なかなかしっくりとは、新自由主義が現れない。

→ だから別に、新自由主義的な政党ができる。

欧米では、

保守 vs 社民

伝統重視
競争重視
の傾向

多様性重視
平等重視 →
グローバル
化等に順応

国民が選択してきたが、今、時代が変化する中

ポピュリズムの台頭
左派：富裕層に批判的
右派：移民等に批判的

日本では、

万年与党

保守 vs

万年野党

社民

利益誘導
癒着政治
クライエン
テリズム・・・
票や資金の見返りに
保護し、配慮する。

改革ポピュ
リズム台頭

与党批判
癒着批判
平等重視
→反動で
改革重視 ※

左派ポピュ
リズム台頭

※ 冷戦後の改革競争、野党再編、財政赤字膨張により、社民系であるべき民主党に、緊縮財政志向があった。

整理すると、

- ① 日本では保守政党が**何でもありの利益誘導型**である。・・・これは国民が受け入れるとめちゃうちゃう強い。
- ② 保守系に代わって、時に政権を担うべき社民系が、保守系に勝てない事、利益誘導政治が受容される、古い**封建的な社会**で**浸透できない事**から、社民系としての役割よりも、権力を増長させない事、**監視する事が中心**になる(それも重要)。→野党的な理想主義を、捨てられなくなる。**質の向上も難しい**。
- ③ 万年与党、万年第2党（万年野党）にも十分でない新自由主義を担う、改革政党が誕生する。だが**新党としての危うさや力不足は深刻**。そして万年与党による利益誘導政治が浸透しており、社民系（第2極）にも、最低でも第3極として存続するだけの力がある中、野党（第2極と第3極）が、与党よりもお互いを批判するような、競合関係となる。国民も目移りする。

・その時の争点について、自分に近い政党。
・考えの近い、普段から支持している政党。
・政権を評価できる場合、与党第1党。

これらが別の政党である場合、選挙でどの政党に投票するか、国民はさらに考えるのが普通。

だが利益誘導政治が浸透していると、単に世話になっている政党に投票。

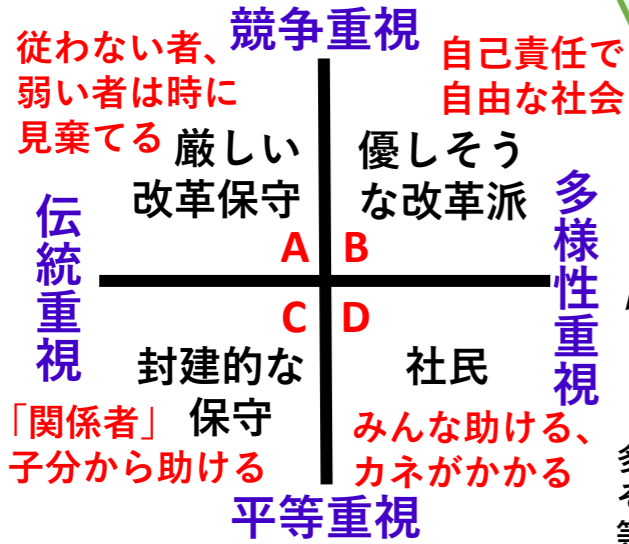
● 与党に計画性はなく、票や献金につながる自党に有利な政策を優先。(関係者優先)

合成の誤謬を認識し、 良く機能する政党制へ

政権交代論チラン2022年春第3号(全5号) 製作者:伊吹健(政権交代.com)

- 政策で選んでみても、何でもありの自民党1党優位のままでは、勝つのは必ず自民党。それでは政策による政権選択にならない。まずは選べるように、現状を変えていかなければいけない。
- 政策で選べるようにするため、全体像を考えなければいけない。
- 政党の位置関係を見て、日本の政党制の問題点、主要政党の問題点を見つける。

※日本に特有の、国防の問題は省略し、裏面で補足します。赤字は極端な場合です。



ここでも補足すると、日本の左派政党は、国防が非現実的。…しかしそれが歯止めになって、日本が戦争に巻き込まれずにいる面もある。

社会主義は独裁的、うまくいかない。…しかし社会主義の圧がなければ、資本主義国は格差、貧困問題を、そこまで重視する必要がなかった。

物事は両面を見ないと理解できない

多様性とは自由。例えば夫婦が同じ姓にする事は認めても、それを強要する制度には反対。しかし他者の不寛容な発言等を許さない事は、時に必要でも、自由の侵害になる危険。

- A対B：貧困、格差の問題が軽視される。(Bは他者に寛容だが、格差是正、貧困解消のための制限を、警戒する面がある)
- B対D：伝統が軽視され過ぎて、地に足がつかなくなる。
- C対D：非合理的な点、時代遅れとなった点が改革されにくい。
- C対A：自由が失われていく危険性が高い。

※ 以上は共通点が多い政党同士の対立で、偏る危険がある。偏りに対する不満から、空いているゾーンに新党が浮上する可能性もある。この新党の浮上や政党の再編によって、対立構図自体が、下の合理的なパターンに移行する可能性がある。

- A対D：欧米のスタンダードと同様の、合理的な対立軸。
- C対B：古い時代(日本は戦前)の対立軸… 政権が恩恵を与えるかわりに自由を制限するか、低福祉低負担の自由な社会か。

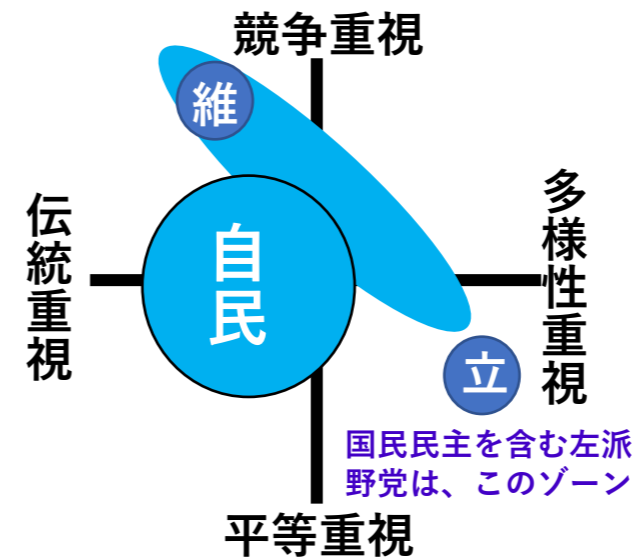
合成の誤謬…それぞれが良かれと思ってやったことが、合わると良くない結果をもたらす。

例：皆が将来に備えて節約すると、景気が悪くなる。

国民民主党は公約を実現させようとして、与党自民党に寄った。しかし、それでは自民党が強くなるだけで、選挙による公約の選択は困難になる。

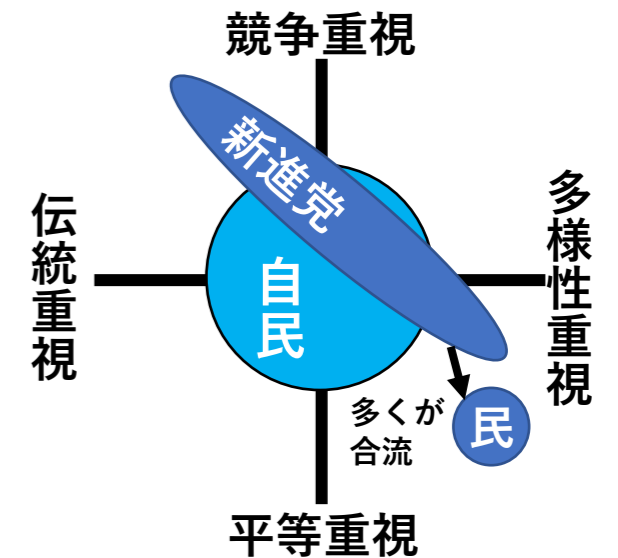
④ 日本の現在の政党配置

…立憲等 vs 維新なら合理的だが、自民が存在する。維新も、別のゾーンに広がろうとしている。



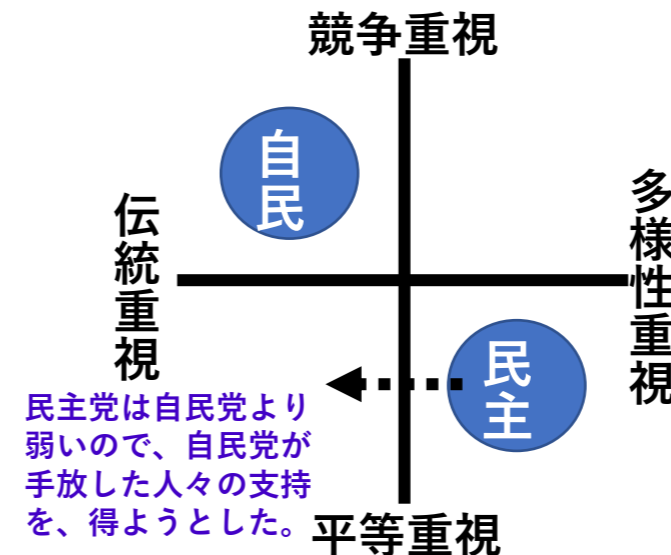
① 民主党結成、拡大時の状況

…この時も今と同じ1強2弱(今よりは、自民党が弱い面もあったが)。保守2大政党制になると思われた。



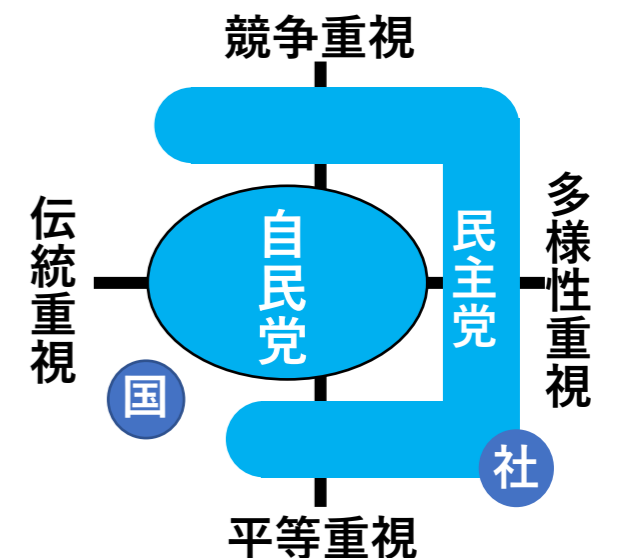
② 小泉自民 vs 小沢民主の構図

…ほぼ1対1の、しかも欧米の標準に近い合理的な対立構図となった。



③ 民主党政権期の状況

…自民党があいまいに戻り、差異のある、非自公が協力。



民主党政権が誕生するまでに、自民党があいまいになり、元々は非自民の各ゾーンの寄せ集めでもあった民主党も、自民党以上の幅の広さが、小沢派と非小沢派の対立と合わさって、明確化した。
+ 民主党政権には国民新党も含まれていたから、本当に幅が広い。

そもそも民主党への政権交代は、

2つの矛盾する期待を背負っていた。

…① 小泉自民の新自由主義的改革の、弊害の是正（社民的な期待）

② 小泉後に後退した改革路線の、強化（新自由主義的な期待）

この矛盾する期待を受けなければ、政権交代はあり得なかった。
しかし、このような矛盾は必ず問題になる。→ 民主党政権の内紛



結局は、無理に合流して矛盾を抱えるか、
立憲と維新の様に、分立して共倒れになるか、
そのどちらかしかないのか？

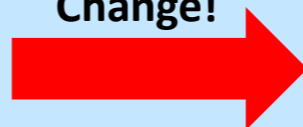
民主党の結成と拡大は、社会党を薄めて社民系にする作業
欧米では社会主義政党が、資本主義の中で格差を是正する、社会
民主主義政党になった。その際、最左派の離党があったが、残部
けでも、第1党になるだけの十分な力があつた。日本は、それが
可能なほど発展しておらず、社会党の統一が重視され、右派から
多く離党者が出た（民社党に）。さらに戦前の弾圧、悲惨な戦争、
敗戦の経験もあって、非現実的平和主義が社会党支持の柱となり、
時代の変化に対応できなかった。冷戦後、不振に苦しむ社会党系を
中心とした、再編が起こった。第2保守党は野党暮らしに耐えられ
ないなど、それ以上に弱く、自民党vs社会党系（→民主党系→立憲）
という欧米の標準形は残ったが、政権交代の定着が実現しないまま。
…再び薄めるような再編をするのではなく、立憲を芯のある左派
政党として育て、政権交代を定着させ、**欧米の標準に一度追いつく。**

そして、もう一つの重要課題、

国防

- ・ 国防は間違いなく左派野党の課題（まだ十分に向き合っていない）
- ・ しかしその原因である、不幸な歴史からも目を背けてはいけない。自分は安全圏にいて威勢のいい事を言うのも、自覚がないと危険。
- ・ 日本国内の「意見の違い」というレベルを超えた溝は、不幸で危険。

Change!



- ・ 国防の強化について幅広く検討し、国防の議論を、論破を目的とせず、互いに尊重しながら、建設的に多角的に尽くす。
…これは**1党優位のままでは非常に難しい。**
- ・ 左派野党に**与党経験**を引き続き積みませ、国防に向き合わせる。
※ 持論を押し付けるためだけに、世界情勢を利用しない。

どちらが良いのか、次号をご覧ください。

左右の分類は古くない。左右の分類から国防を可能な限り外し、経済・文化中心にし（欧米のスタンダード）、選択肢を強化する。

ロシアによるウクライナ侵略で、見たもの：**言論の自由がない**ところ、独裁的なところに、最も**戦争の危険**がある事。

考えること：核兵器等があれば侵略されないのか？…国土が広く、国民を犠牲にできる国と戦えるのか？

維新、れいわの特殊性にも気づかされる。それぞれの主張も分かるが、危うさもある。自民、立憲の陣営で育てるのが得策ではないのか？

・ 1強2弱の3極構造を壊すには、

- ① 維新から共産までが選挙協力等をし、自民党を弱らせて、その後、有意義な政党システムを形成するのが速い。
（イタリアでは自民党に当たる政党がバラバラになった）
- ② 国民の大多数が変わり、自民党に投票しなくなるのが、确实。
※ 姿勢が明確になり、支持者を選ぶようになった自民党ならば、存続しても問題はない。

・ ①は、現状では非常に難しい。

国民の中にも、「維新が勝つくらいなら自民が勝つ方が良い」、「立憲が勝つくらいなら自民が勝つ方が良い」という声は、小さくない。危機意識（左派野党の理想主義、維新の危うさ）、政策的な違いがあるのは分かるが、これでは、現状を変えようとする野党の側が、自民党中心の構造を守る事になってしまう。

- ※ どちらかが100%正しいなどということは、まずない。
しかし多くの野党、そして連合もコミュニケーション能力が欠如している。感情的で交渉が難しい。
…国民はこれに乗らず、政党の成長を求め続ける必要がある。

・ 国民にできるのは②。 それは具体的にはどういう事か？

- ① 立憲民主党という野党第1党（の陣営）に力を集中する。
- ② 維新の会を野党第1党に押し上げ、状況を変える。

合理的な政党制・対等な競争 → 議論 → 国民の自主的選択
→ 政党の質を上げる・国民の質が上がる。

そろそろ野党第1党と向き合い、 育て、政権交代の定着を

政権交代論チラン2022年春第4号(全5号) 製作者:伊吹健(政権交代.com)

欧米(議会政治の先輩国)では、

国王、貴族に対して、
ブルジョワが自由などを求め、

保守 vs 自由

経営者に対して、労働者が
過酷な条件の改善、平等を求め、

保守 vs 社民

※自由系は保守陣営と社民陣営に別れるか、
規模を小さくし、(やや)保守寄りに

今、社民もグローバル化を
受容。エリートの政党に?
多様性を言っても格差は軽視?

※過渡期に入ったと考えられる。

既成政党 vs ポピュリズム
or
保守・右派ポピュリズム
vs
社民・左派ポピュリズム

政権交代が早期に定着し、まずブルジョワが、次に労働者が、政権に参加。
「自由」と「民主」を勝ち取っていった・・・

日本国民はこのように野党を育て、 状況に応じて政党制を調整してきたのか?

- ・・・残念ながら、大物政治家の決定を追認するばかり・・・
大きな変化は、「外圧」頼り：ペリー来航で、議会導入へ。
戦勝国の命令で議院内閣制に。
- ・・・それでも有権者は、優位政党は育てた。しかしそれに対抗する
政党を、議会ができて約132年、いまだに育てていない。
- ・・・育ったように見える時、それは優位政党の離党者等との、
「縦の再編」によるもの。しかしそれでできた大政党も、
結局は振るわなくなり、1党優位の存続(復活)を許す。

自民 vs 民主 → 立憲民主 → 維新が誕生 → 維新が躍進 → 自民党と並ぶには時間がかかる → 別の新党が浮上

「政権交代がもう起こらなそう」 「おっ! 維新が良さそうだ」 「維新でも政権交代起こらなそう」 政権交代がないまま、あるいは
「民主はダメ。いい野党ないかな」 「危ういし新自由主義はダメ」 「他にいい野党はないかな?」 1回の失敗で、また2位争い・・・

改めて、 立憲を育てるべきか、維新を育てるべきか?

- Ⓐ 立憲を育てるリスク：未熟さ(与党経験もまだ足りない)
民主党政権の総括が不十分
日本型左派への不安、共産党との関係
- Ⓑ 維新を育てるリスク：反対意見に不寛容であるなどの危うさ
大阪での経験も、複雑な国政には不十分
保守2大政党(+小さな左派)の是非

Ⓐ 1994年、総理大臣を出した社会党は、自衛隊、日米安保を認めた。それは支持者等への裏切り。同時に、責任ある立場になった事による変化でもある。この変化をつかまえて、国防に関する国内の大きすぎる溝を埋めるべきだった。責任ある地位に就けて成長を促すのは、リスクイだが、避けられない事。

立憲を罵ったところで、民主主義国の政党制はその国民の鏡像、自民党は私達、立憲も私達。そこから逃げる事はできない。

産業、社会が発展した欧米で、徐々に社会主義が発展したのに対して、日本は上から一気に近代化を進め、国民も未熟な中、性急な民主化の要求を抑え、議会政治へ移行しなければならなかった。その間にも、欧米での社民系の政権獲得、ロシアでの社会主義革命の情報が入る。だが国内では弾圧もあり、不振。日本の社会主義政党が生まれた時の環境も、その後の発展に影響を落としている。しかし社民系の政党は必要。社会党も特に冷戦後、再編も経て変化した。それでもゼロからやり直すのか。

民主党のやり方

- ① とにかく合流し古い左派から脱皮。
労組、穏健左派、都市部無党派の結集。・・・矛盾を抱える
- ② とにかく政権交代を実現し、自民を1日でも長く野党にして弱め、政党制を変化させる。・・・他の道がない

新党は、何度でも現れて、気楽な立場で挑戦をする。それによって他の野党は議席を減らす。自民党は何重にも漁夫の利を得る。これを止める事が重要。

立憲民主党とは、
社会党を薄めて曖昧になった民主党を、左派（社民系）を軸に再編。
民主党は財政規律重視、【消費税引き上げ・福祉の維持と充実】へ。
だが状況の変化、れいわ新選組の浮上もあり、立憲はより社民的に。
…未熟ながらも形は整った。次のステージへ、上げるのは国民。

② 新自由主義的な政党は必要。しかし保守2大政党制では、仮に一時的に政権交代が起こりやすくなっても、**選択肢がなくなる**。
改革をあまりやりたくない政党 v s 急いでやりたい政党
…改革の是非、改革の中身が争点にならない。

利益誘導・癒着政治 v s 新自由主義的な改革政治

…自民党政治を変える事は争点になるが、それに代わる
選択肢が、右寄りの新自由主義だけになる。（支持の
拡大を狙って路線を修正し過ぎても、また曖昧になる）

維新の危うさにも注意が必要だが、維新が第1党になること自体
にも、深刻な問題点が隠されている。

… 維新が野党第1党になるという事は、小選挙区で当選者を
大きく増やすという事ではない、自民党はそんなに弱くない。
… 維新は立憲（野党第1党）が得る票を削り、
立憲の当選者を減らすことで、相対的に野党第1党になる。
例えば、自民270、立憲100、維新40を、
自民300、立憲50、維新60にする。
維新が【第2党】【野党第1党】というブランドを手にしても、
1強多弱化は進む。人材も資金も、優位政党に過度に偏る。

今度は維新が、まだ力が足りない中で、批判される側になる。
左派野党に票を削られる側になる（格差、貧困が問題になる限り、
左派野党は消えない）。もし奇跡的に政権を手にしても、国政の
経験が不足する中、課題が山積する中で、
目玉公約であるベーシックインカムの実現は難しい。
（財源の問題、不十分な支給と競争で格差、貧困が深刻化し得る）

維新の会とかつての民主党との類似性にも注意が必要。

政策の財源に関する楽観論 → 党内不一致
第三の道（社民と新自由主義の融合）

民主党系や維新の会を単独で見るとは、
臆病であっても、受け身であっても、変わろうと葛藤する、
日本政治、日本国民の一連の挑戦と捉える。

利益誘導政治・癒着の
万年与党と、ブレーキ
役・監視役の万年野党 → 余裕のある高度成長時代が終わり、少
ないものをどう分配するか、政策を増税で
やるか、国債でやるのか、選択の時代に。

自民党から、一部が改革派を自称して離党したのは前進あったが、
自民党内の権力闘争による変化であり、国民が選んだのではない。

政治文化は急に変わらない。
農村部に強固な優位政党支配。
離合集散による変革の限界
（内部対立、与党への移籍）

新自由主義の
明確な姿勢、
根拠地も持つ
新政党の浮上

※通常の地域政党とは異なる
維新の会の浮上は、日本に
おける特殊な展開にも見え
るが、右派・改革派ポピュ
リズムと左派ポピュリズム
（れいわ）の浮上
という面もある。

1位だけ当選する小選挙区制
のままでは「主役」の交代は
ほぼ無理。2番手だけを取り
かえて何とかしようとしても、
「芝居」の質は上がらない。

再度の1強2弱化。何でもありの
自民党が支持される間は、明確な
姿勢をとる野党は政権を取れない。
（具体的な事には必ず反対がある）

※大阪維新も国政与党の協力なしには、政策を実現
させられない面がある。この点ではしがらみがある。

2番手を取りかえてしまうと、これまでの2番手（自民党に対する挑戦者）の、
苦闘の経験が引き継がれない。それでは繰り返してしまう。無限ループを脱せない。

・ 国民が変化の過程を「1つの道」として把握する。
・ 立憲と維新が、一致せずとも相互理解に努める。

・ 維新とれいわを既成政党の陣営に入れ、陣営をさらに変えていく。
（自民と立憲）
・ 2陣営の明確な形成と、その中での国民の比例票による意思表示。

政策の実現も重要だが、日本の全体像を考える事も、より重要。
…いくつかの事がうまくいっても、全体が破綻すれば終わり。

今年の参院選。仮に第2党が入れかわろうと、日本は良くなる。自民60台。公明、立憲、維新10台。国民、共産、れいわ1ヶタ。このような結果では何も動かない。侵略行為を見て、国民が選ぶ事、自由の大切さを感じた今だからこそ、自ら変わる。前に進む。

なぜ、民主党系は「ダメ」なのか？ それでも野党第1党を育てなければいけないのか？

政権交代論チラシ2022年春第5号(全5号) 製作者: 伊吹健 (政権交代.com)

野党第1党を育てて、思考停止国から、
最先端の民主主義国へ。
そして強い経済、強い国防態勢へ。

気が付くだけで間に合う。
日本の力なら挽回できる。

2つの、分析と思考停止

野党第1党がダメだから、
それより少しはマシな、
自民党が勝ち続ける。

↓

良い野党が
出てこなければいけない。
良い野党が、議席を
伸ばさなければいけない。

↓

これが思考停止・・・

↓

問題は、なぜ野党第1党が
自民党より「ダメ」なのか
という事。
これを考えて正さぬ限り、
変わらない。
野党第1党を取りかえた
としても、似た失敗を
繰り返す可能性が高い。
(例えば新進党の失敗)

日本では自民党が強い。
自民党はなかなか幅が広い。

↓

そんな自民党に投票しない、
様々な「普通でない」人々、
「妙に主張が強い」人々の
支持を集めて、
野党第1党は自民党に対抗
しようとする(しかない)。

↓

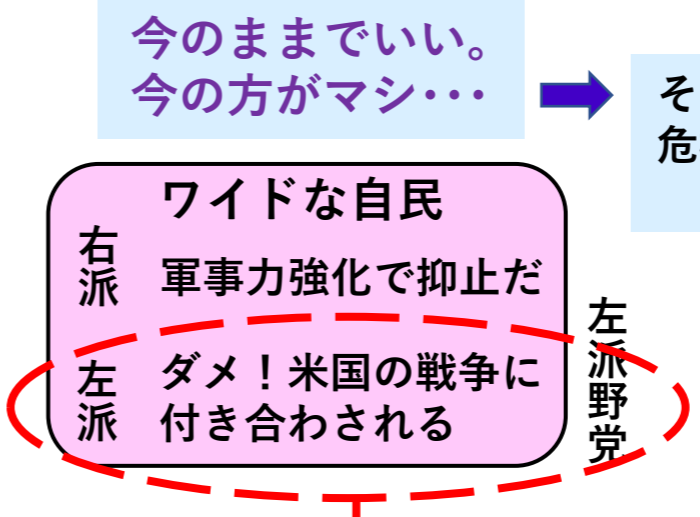
自民党に対抗するために、
矛盾を抱える。その矛盾を
隠そうとして、ごまかそう
として、質が低くなる。

↓

ここで思考停止・・・

↓

問題は、野党が自民党に
勝つために、無理をする事。
つまり自民党が強過ぎる事。



ここが実は意見が近いから、
全体では保守系が多いように見えても、
国防の議論、前進は期待できない。
これは国防に関してだが、**何でもこういう事。**
(左派が進めたいものを右派が邪魔する事も)

**左右どちらが良いという事ではなく、
選挙で複数の異なる明確な政党から、
政権を任せる党を選び取れないため、
何も進まないという事がピンチ。**

そして2021年の総選挙で生まれたのは、
自民党に「良い質問ですね」と言われて、
喜ぶような野党(の支持者)・・・

静かなる集団ヒステリー劇場

国が沈むと、普通は右翼、左翼、危険なポピュリズムが台頭して混乱する。
だが日本の場合、優位政党にすぎり、野党を育てず、天から優秀な野党が
降って来るのを待ち続け、気付けば破滅。**気付きにくいから、たちが悪い。**

国民の意識が変わらないとムリ!
まだまだ自民党が勝ち続ける。

与野党が同じ路線の場合、与党として
政策を実現し、利益誘導もできる与党
自民党が、野党よりも圧倒的に有利。
野党が細かな政策、方法の違い、
クリーンさをアピールしても弱い。

それに、もし仮に成功しても、
優れた自民とダメな自民では、
国民にとって選択肢にならない。

それは今しか、日本しか知らないから、
危機に気がつきにくいのではないか?
伸びない経済、不十分な国防

そして、気が付いている人も・・・
弱い経済、こわい!
弱い国防、こわい!
野党はこわい! 野党の議員でいたく
ない! 与党の自民党さま助けて!!

自民党政権で日本が沈んでも、
自民党しか頼れないと考える。

↓

日本が沈むほど、沈めている
自民党にしがみつく。政党も、
支持団体のためにしがみつく。

↓

公明、維新に続き、国民民主
も、自民党にすり寄った。

↓

これが成功すると、政党が
競って自民党にこびる。
・・・衛星政党化。新しくない。

この2つの思考停止にサヨナラを!

国民が政権を選び取れない国が核武装? 敵基地攻撃能力?
1党優位の国で、緊急時に弾圧すらできてしまう緊急事態条項?

2つの思考停止を、乗り越える。

- ・国民が何でも決める事はできない。国民が正しいとも限らない。しかし、国民が選ぶ事を放棄してしまったら、民主主義国の資格を失う。「自由」や「民主」を失う危険性も高まる。

選択の放棄とは「自民党内で総裁・主流派が交代すればいい」「自民とほぼ同じ政党なら、政権を任せてもいい」

思考継続その一、野党第1党が「ダメ」な理由

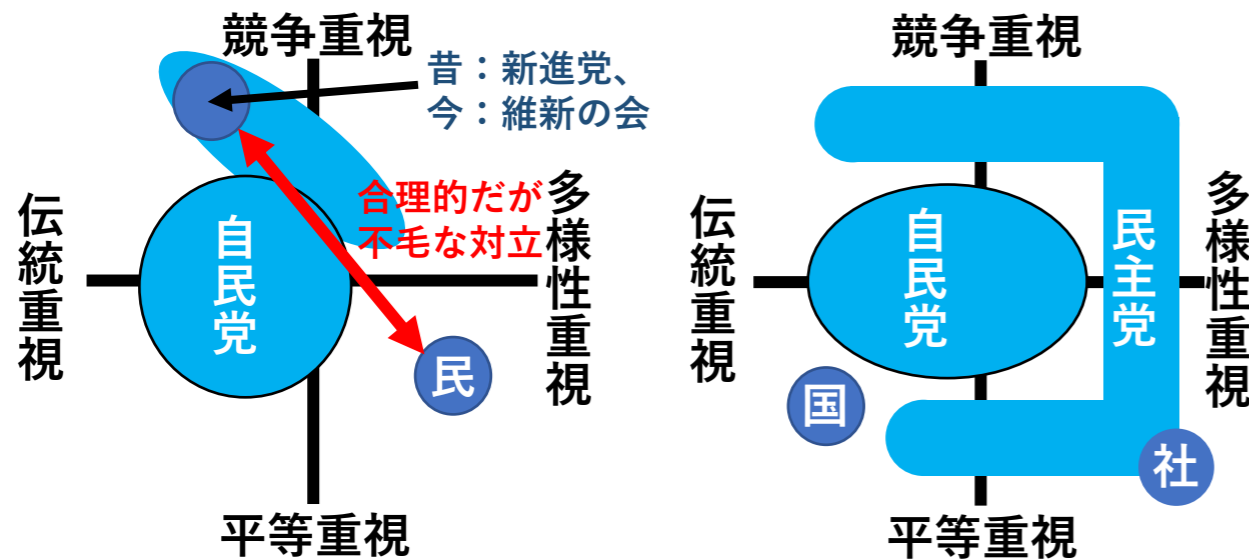
- ・・・理由は、過去号で述べた戦前、終戦後の歩み・・・理解が重要。自民党が強過ぎる事（これが次の、思考継続その二）

思考停止その二、自民党が強過ぎる事

- ・・・理由は、やはり戦前、終戦後の歩み
 - ・・・自民党が、地盤の強すぎる、何でもありの、利益誘導・癒着型の優位政党として、生まれ育った。

そして、変化の時代にすら・・・

民主党が伸びていた時代の前後 民主党が伸びていた時代



ど真ん中に巨大な自民党が存在する限り、野党が一瞬よく見える事はあっても、まともな政党にはならない。では私達に何が出来るのか？

A. まずはこの状況を知る事、問題意識を持つ事。そして、

- ・・・個人の政治的な立場や主張よりも、政党システムの修正を優先させなければ、何も変わらない。国が沈み続ける。・・・具体的には、自民党の過剰な規模、強さ、あいまいさを改めなければならない。

- ① 選挙で自民党に票を入れずに消してしまえば、合理的な政党システムになる。

これをやるほどの合意形成はあまりに難しい。大きすぎる変化のため、不安定になる。

- ② 自民党を明確な政党にする。でも、どうやって？

社民系の政党であり、野党第1党でもある立憲民主党を、今よりも強く、大きくする。

これがビリヤードのブレイクショットのように、物事を動かす。

立憲がさらに経験を積み、現実的に成長

野党第1党が強くなる事で、危機感を持った自民党の質が向上する

理念が明確なライバルが支持されれば、自民党も明確になる

簡単な事ではないが、政党を2つは育てるのが、民主主義国の国民。愛のある批判も届ける。

新自由主義的な政党との協力。もう少し支持者を選ぶ政党に。

これからは国民が、もっと自力で、政権交代の定着を前に進めるしかない。

それでも浮上する、「今じゃない論」・・・

一番ましな自民党に任せて、必要になったら政権交代をすればいいんじゃないの？

それが民主党政権じゃないの？何十年も間を空けて政権交代したら、また同じ事になる。

万年野党も急ごしらえの新党も、絶対に失敗する。なぜなら、希望のない中で生まれ、希望のない中で育つから。これでは人材も資金も集まりにくい。理想偏重になりやすい。維新は自由民主共産党。* 維新が様々な政党に似ていることについては、政権交代.com内「新・政権交代論」をご覧ください。任せる厳しさ、任せる覚悟を持って、まだ「ダメ」な野党を、目移りせずに育て続ける事が重要。

2009年の、選挙による政権交代。それは奇跡的に非常に多くの条件がそろっただけ。それが再びそろう事など、そうは起こらない。
* 2009年にそろった数多くの条件についても、政権交代.com内「新・政権交代論」をご覧ください。

製作者 伊吹健 (いぶきけん) ホームページ: 政権交代.com
紹介 高校時代に55年体制の終焉を経験。選挙によるものとは言い難い政権交代、繰り返されるブームに疑問を持ち、政治を研究。国防に関しては右寄り、新自由主義も必要だと考えるが、(左派野党との) 政権交代の定着を唱える。